

## 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会について

### 地域防災室

消防庁では、昨年12月に成立した消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律を受けて、消防団充実強化対策本部を設置し、消防団員の加入促進、処遇の改善、装備・教育訓練の充実強化等について強力に取り組んでいるところです。

同法の趣旨を踏まえて、本年8月29日には、日本消防協会が中心となって、「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」が開催されます。大会の概要は次のとおりです。

#### 日本消防協会

#### 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会

##### 1 大会趣旨

昨年の臨時国会で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。

これは、地域防災の中核である消防団の充実強化を進めるとともに、消防団が重要な役割を果たしながら、地域の企業、各種団体はもとより、サラリーマン、女性、若者などを含む住民の皆さんの総力を結集して、地域防災力の充実強化を推進しようとするものです。これまでにない画期的な法律です。

この法律の趣旨をいかして、お一人お一人の安全を確保するためには、広く皆様のご理解を頂き、そのご参加のもとで国民運動的な盛り上がりを進めることが必要です。

この大会は、その第一歩です。

##### 2 大会発起人（五十音順）

・石原信雄氏（元内閣官房副長官）

- ・陣内孝雄氏（全国防災協会会長）
- ・清家 篤氏（日本私立大学団体連合会会長、慶應義塾長）
- ・高井康行氏（全国社会福祉協議会副会長）
- ・西元徹也氏（元防衛庁統合幕僚会議議長）
- ・野田 健氏（元内閣危機管理監）
- ・福地茂雄氏（元日本放送協会会長：発起人代表）
- ・室崎益輝氏（消防審議会会長）
- ・横倉義武氏（日本医師会会長）

#### 3 日時・場所

- ・平成26年8月29日（金）13時30分から16時まで
- ・東京国際フォーラム 東京都千代田区丸の内三丁目5番1号

#### 4 大会内容

（司会進行）平野啓子氏（語り部・かたりすと）

##### (1)開会

##### (2)活動事例発表（詳細は別紙）

- ①女性防火クラブによる災害時初動体制の整備など  
地域防災力強化：福岡県福岡市
- ②震度6強を想定した総合防災訓練：東京都墨田区
- ③特に医療関係機関との連携：茨城県日立市
- ④特に福祉施設との連携：福島県桑折町(こおりまち)
- ⑤消防団など地域が協力する水防活動：茨城県龍ケ崎市
- ⑥消防団が中心の津波防災対策：高知県黒潮町
- ⑦消防団を中核とした地域防災力の充実強化：愛媛県松山市
- ⑧女性消防団員による防火防災のPR劇：三重県津



市

⑨少年消防クラブの防火防災活動

- ・宮城県気仙沼市（防災学習）
- ・埼玉県三郷市、東京都麴町（軽可搬ポンプ操作）

⑩女性消防団員による応急手当体操：奈良県奈良市

⑪総括コメント

(3)会場内意見交換

(4)大会締めくくり

5 大会参加者

地域防災力に関係する各種団体等の皆さんと参加  
ご希望の一般の皆さん。

大会に関する問い合わせ先

公益財団法人 日本消防協会 佐藤

T E L 03-3503-3049

(別紙) 活動事例発表

(女性防火クラブによる災害時初動体制の整備など  
地域防災力強化)

○福岡県福岡市

市内玄界島では、平成17年の福岡県西方沖の地震  
体験を活かし、離島であるため消防隊が到着するま  
で30分以上の時間を要し、また、島民の大半が漁  
業者で、若い男性が漁に出ていることが多く、日中  
に災害等が発生した場合、島に残っている女性たち  
が中心となって高齢者や子供たちを守らなければな  
らないことから、玄界島女性自衛消防隊防火クラブ  
は、災害時の初動対応から後方支援活動まで幅広い  
防災活動を行っている。

(震度6強を想定した総合防災訓練)

○東京都墨田区

墨田区では、毎年防災訓練を行っており、昨年は東  
京湾北部を震源とするマグニチュード7.3、震度6

強の地震により、家屋及び商業施設の倒壊、火災、  
道路の亀裂、障害物の散乱、堤防や橋梁の損壊、道  
路・鉄道等の交通網の遮断、電気、ガス、水道、電  
話などの生活関連施設の被害が発生したとの想定  
で、36機関が参加する総合防災訓練を行っている。

(特に医療関係機関との連携)

○茨城県日立市

日立市では、毎年大規模なトリアージ訓練を行って  
おり、昨年は医師会、歯科医師会、薬剤師会、日立  
総合病院DMA Tチーム、保健所、市保健福祉部、  
県防災航空隊、消防本部、消防団、県警、女性防火  
クラブ、自主防災組織、日立電鉄交通サービスなど  
約300人参加のもとで、大規模災害発生時の情報伝  
達、各関係機関の参集、関係者の協力による救出・  
救護・トリアージなどの訓練を行っている。

(特に福祉施設との連携)

○福島県桑折町

桑折町消防団においては、毎年、特別養護老人ホーム  
で夜間に火災が発生したことを想定して、消防団  
員が主体（52人参加）となって、施設に入居して  
いる要支援者をシートや担架を利用して、避難誘導  
を行ったり、ベットから車いすに移動して避難する  
訓練を行っている。

(消防団など地域が協力する水防活動)

○茨城県龍ヶ崎市

龍ヶ崎市は、昭和56年8月に発生した小貝川堤防  
決壊（いわゆる竜ヶ崎水害）で、家屋半壊42棟、  
床上床下浸水1,215棟、浸水面積は市の面積の4分  
の1が浸水し、負傷者2名の被害が生じたが、消防  
団員延べ4,000人を動員し、被害を最小限に抑えた。  
この水害を教訓として本年度は、河川管理者との協  
力のもと、消防団が主体となり、局地的な集中豪雨  
や急激な河川の増水によって発生する水害に対し

て、迅速的確な体制づくりを進めることとしている。

(消防団が中心の津波防災対策)

○高知県黒潮町

黒潮町では、南海トラフ地震が発生した場合「最大震度7、最大津波高が日本最大の34m」という厳しい被害想定がある。地元消防団は「自分の町は自分で守る」という精神で南海トラフ地震としっかりと向き合い、「一人の犠牲者も出さない」防災文化のまちづくりを行政と一体になって進めている。

(消防団を中核とした地域防災力の充実強化)

○愛媛県松山市

松山市では、消防団が多彩な活動をしているほか、消防団員を市全体で応援する「まつやま だん団プロジェクト」(消防団応援の店)を創設し、200を超える事業所が消防団員を応援する支援策を講じている。また、職種、年齢、性別などの特徴を活かした「機能別消防団員(郵政団員、大学生団員、事業所団員、鳥しょ部の女性消防団員)」を全国で初めて導入するなど、中核となる消防団員の確保のため、市民、企業、団体等が全体で消防団を支え、応援する仕組みを創り、市民の消防団活動への理解を高める様々な対策を行っている。

(女性消防団員による防火防災のPR劇)

○三重県津市

津市女性消防団員は、「火災無子の防災教室」という防災劇で、子供からお年寄りまで楽しんで頂きながら、「地震が起きたらどうするか」の問題を提起し、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを訴えている。

(少年消防クラブの防災活動)

○宮城県気仙沼市

階上中学校少年消防クラブは、9年前から学校全体

で総合防災学習に取り組んでおり、年間35時間の学習により、自助、共助、公助について3年サイクルで学習している。特に、総合防災訓練では生徒たちが、救出班、救護班、テント・トイレ班、炊き出し班、避難所班の5つの班に分かれて「私たち中学生が災害時にできること」を重点に積極的に参加している。

(少年消防クラブの防火防災活動)

○埼玉県三郷市

三郷市少年消防クラブは、幼少の頃から消防・防災に関する知識と技能を習得して、命と暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、軽可搬ポンプの操法訓練などを通し、規律や防火マナーを身につけ、将来の地域防災を担う人材への成長をめざしている。

(消防少年団の防火防災活動)

○東京都麹町

麹町消防少年団は、小学校1年生から中学校3年生までの少年少女55名により組織されており、防火防災に関する科学的知識と軽可搬ポンプの操法などの技術を習得し、団体活動を通して規律や礼儀を守る習慣を身につけるとともに、地域社会に奉仕する心を養い、健全な心身を持つ少年少女を育成することを目的として防火防災活動を行っている。

(女性消防団員による応急手当体操)

○奈良県奈良市

奈良市女性消防団員が安全確認、反応確認、胸骨圧迫、人工呼吸など応急手当の動作を取り入れた「やまとなでしこ体操」を創作し、体操しながら救命講習の流れを体得できるようにしている。

**問い合わせ先**

消防庁国民保護・防災部地域防災室 佐藤、岡地、鷹嵩  
TEL: 03-5253-7561